



PETとは

- P (=positron:陽電子)
E (=emission:放出)
T (=tomography:断層撮像法)

陽電子（プラスの電荷を持った電子）を放出する放射性同位元素を使い、体の中の物質の動きや様々な代謝を評価する核医学検査の一種です。

同位元素を含む薬剤を注射（検査によっては吸入）し、そこから出る放射線で、画像を撮像します。

PET検査の特徴

● 薬剤の副作用はほぼ生じない

核医学検査で用いる薬剤は通常の薬効を示すよりも数桁少ない量の化合物を使うため、薬剤そのものの副作用はありません。
用いる薬剤は、造影剤ではありません。

● 患者から放射線が放出される

検査後の患者様からも放射線がしばらく放出されるので周りの人に放射線の影響がでます。

● 目的によって異なる薬剤を用いる

薬剤の種類によって、体内の分布が異なるため、検査目的に応じた薬剤を使います。

※上記特徴は全て
SPECT検査（シンチ）と共通

● 薬剤は時間とともに減衰する

長いもので約2時間、短いもので2分たつと放射能が半分になります。
（PET薬剤は“なまもの”です）

※SPECT検査（シンチ）で使用する薬剤は
PET検査と比べて半減期が長い

当院のPET検査について

● 院内で薬剤合成が可能

当院では研究所に薬剤合成の設備を備えているため院内での合成が可能です。
メーカーからの供給のない薬剤の検査や、入院中でDPC内になる患者でも必要であれば対応可能です。

● O-gas PETを施行可能

関西で施行可能な3施設のうちのひとつが、当院です。

● 各種薬剤による研究を施行

保険適応外の検査や、アミノ酸代謝を見るMeAIB-PETや、アミロイドPET、タウPETなど、各種研究用検査を行っています。

PET室は、外来2階Dブロック左にある
廊下を進み渡り廊下を渡った先にあります



～PET検査についての基本的事項や診療上重要な注意事項、検査室からのお知らせ、
進行中の研究からトピックスまで さまざまな情報を適宜ご紹介いたします～

・・・ vol.2 ではFDG-PET/CT検査の保険適応について詳しく解説します